

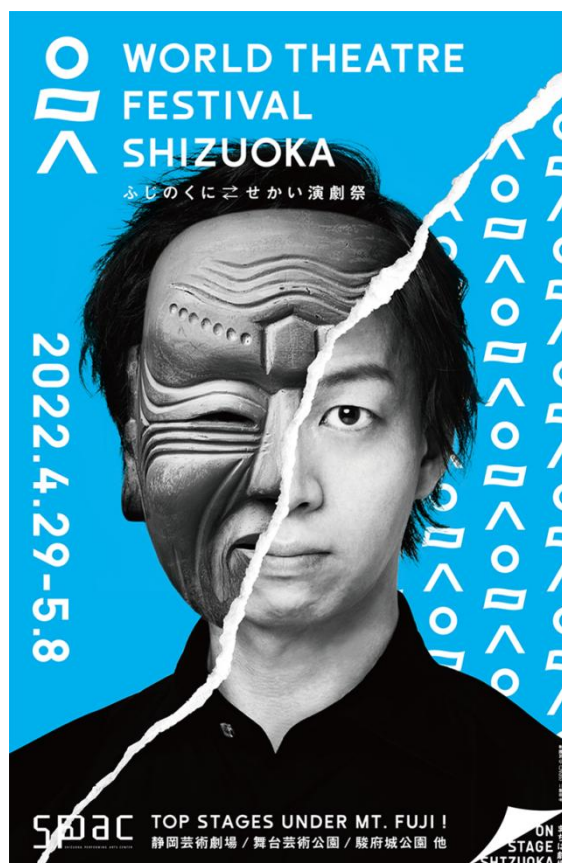
WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA ふじのくにせかい演劇祭 2022

会期：2022年4月29日(金・祝)～5月8日(日)

会場：静岡芸術劇場 / 舞台芸術公園 / 駿府城公園 ほか

全上演ラインナップ プレスリリース

<更新版：2022.3.9>



ふじのくにせかい演劇祭 2022 ガイドパンフレット／表紙：永井健二 (SPAC) ©加藤孝

[ふじのくにせかい演劇祭 2022]

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター

助成：令和3年度文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

ふじのくに芸術祭共催事業

[ふじのくに野外芸術フェスタ 2022]

主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会

■SPAC「ふじのくにせかい演劇祭 2022」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

ふたたびつながる。演劇で、世界と。

SPAC 25 周年 YEAR の演劇祭。

活動開始から四半世紀、SPAC は“静岡から世界へ、世界から静岡へ”とネットワークを広げてきました。その象徴たる「ふじのくににせかい演劇祭」は、国内外の最先端の舞台芸術を静岡で広く体験していただくイベントとして 2000 年より毎年開催されています。2020 年、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催史上初めて中止となりましたが、同期間に「くものうえにせかい演劇祭」をオンラインで実施。そして昨年は全演目を野外上演として開催を続けてきました。活動 25 周年の今年は、3 年ぶりに海外招聘が実現するとともに、宮城聰演出の新作がフランス公演を経て凱旋します。



まちは劇場 ON STAGE SHIZUOKA

静岡はフェスティバルの街！「ふじのくににせかい演劇祭」、「ふじのくに野外芸術フェスタ」、そしてストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡」の同時開催で、街とパフォーミングアーツが一体となり、新緑の SHIZUOKA を彩ります。

■ 「ふじのくににせかい演劇祭」とは

SPAC・静岡県舞台芸術センターでは、1999 年に開催された世界の舞台芸術の祭典「第 2 回シアター・オリムピクス」の成功を受けて、2000 年より「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年行い、各国から優れた舞台芸術作品を招聘・紹介してきました。SPAC が活動 15 年目を迎えた 2011 年からは、名称を「ふじのくににせかい演劇祭」と改め、新たなスタートを切りました。「ふじのくににせかい演劇祭」という名称には、「ふじのくに（静岡県）と世界は演劇を通して、ダイレクトに繋がっている」というメッセージが込められています。静岡県の文化政策である「演劇の都」構想と連携しながら、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する—そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流（ふじのくににせかい）」を理念としています。

■ SPAC (Shizuoka Performing Arts Center)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター (Shizuoka Performing Arts Center : SPAC) は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997 年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007 年より宮城聰が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。13 年、全国知事会第 6 回先進政策創造会議により、静岡県の SPAC への取り組みが「先進政策大賞」に選出。18 年度グッドデザイン賞を受賞、無形の活動が一つのデザインとして高く評価されました。2022 年 7 月に活動開始 25 周年を迎えます。

● 宮城聰(みやぎ・さとし) SPAC 芸術総監督 プロフィール



1959 年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90 年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007 年 4 月 SPAC 芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。17 年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2004 年第 3 回朝日舞台芸術賞受賞。2005 年第 2 回アサヒビール芸術賞受賞。2018 年平成 29 年度第 68 回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19 年フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

生きるための劇場

「人間が人間らしく生きるためには芸術が必要だ。」これはこれまで、芸術を発信する側がしばしば語ってきた言葉だと思います。芸術に関わる仕事を選んだ人たちにとっては、実体験にもとづく切実な言葉です。

しかし、この言葉はうっかりすると社会の分断をいっそう広げかねない危険をはらむようになりました。

というのも、「自分は“ただ生きる”だけで精一杯なんだよ」と思っている多くの人が、「この先いままより余裕ができるとはとても思えない」と感じてしまうこんにちの状況では、“人間らしく”生きるというフレーズが、なんだかとても呑気な言葉に聞こえてしまうからです。ともすれば、「いまだき芸術を享受しているとはずいぶん優雅なご身分だ」という反発さえ起こり得るでしょう。

しかしこの2年間の新型コロナ禍で、私たちは、“ただ生きる”ためにも芸術を必要とする人々が存在することをはっきり知りました。そういう人々にとって芸術は「心の水」であって、これが無いと心が枯れてしまうのです。そして言うまでもなく人間の心と体はぴったりくっついていきますから、心の健康を失うことは肉体の健康を失うことに直結します。

つまり、劇場とか美術館とか音楽ホールは、ある人々にとっての、心の健康施設、心の療養所であって、肉体の病院と同じような機能を果たしているんですね。

いまの日本では、これらの「心の療養所」に通う人の数はたしかに過半数に満たないでしょう。でも、肉体の病気と同じように、心の療養所を必要とする立場に置かれる可能性は誰にでもあるのです。

例えば、孤立、という心の状態。それをいくばくか癒やす機能が、劇場にはあります。舞台の俳優たちは、その日、客席にいる方々全員に、まったく分けへだてなく、全力でエネルギーを届けようとします。日々の社会生活で「私は取り残された」「私は無視されている」と感じてしまった心に、劇場はじんわり働きかけます。

今年の「ふじのくにごせかい演劇祭」では、劇場のその効能をきっと実感していただけることと思います。

宮城 聡



ふじのくににせかい演劇祭 2022 全上演ラインナップ

●演劇祭で上演される全5作品 (3.9 更新) をご紹介いたします。詳細は次ページ以降をご覧ください。

駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

SPAC 新作・日本初演 演劇 <<<静岡 演劇 >>>ふじのくに野外芸術フェスタ 2022

ギルガメシュ叙事詩

5月2日[月]、3日[火・祝]、4日[水・祝]、5日[木・祝]

台本・演出：宮城聡

翻訳：月本昭男 (ふねうま舎刊『ラピス・ラズリ版 ギルガメシュ王の物語』)

音楽：棚川寛子 / 人形デザイン：沢則行

静岡芸術劇場

日本初演 演劇 <<<ソフィア

カリギュラ

4月29日[金・祝]、30日[土]

演出：ディアナ・ドブレヴァ / 作：アルベール・カミュ

日本初演 演劇 <<<ジュネーヴ・ルナン

私のコロンビーヌ

5月3日[火・祝]、4日[水・祝]

演出・舞台美術・衣裳・出演：オマール・ポラス / 作：ファブリス・メルキオ

舞台芸術公園 野外劇場「有度」

SPAC 作品 演劇 <<<静岡

ふたりの女 平成版 ふたりの面妖があなたに絡む

4月29日[金・祝]、30日[土]

演出：宮城聡 / 作：唐十郎

日本平の森 **NEW!**

日本初演 回遊型演劇 <<<ケープタウン・静岡

星座へ

5月6日[金]、7日[土]、8日[日]

コンセプト：プレット・ベイリー / 日本版キュレーション：大岡淳

SPAC 新作・日本初演 演劇 <<<静岡
ふじのくに野外芸術フェスタ 2022 静岡

ギルガメシュ叙事詩

5月2日[月]、3日[火・祝]、4日[水・祝]、5日[木・祝]
各日 18:40 開演

会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

[全席指定] 上演時間：未定（120分以内） 日本語上演／英語字幕

台本・演出：宮城聡

翻訳：月本昭男（ふねうま舎刊『ラピス・ラズリ版 ギルガメシュ王の物語』）

音楽：棚川寛子

人形デザイン：沢則行

出演：SPAC／阿部一徳、大高浩一、石井萌水、大内米治、片岡佐知子、榊原有美
桜内結う、佐藤ゆず、鈴木陽代、関根淳子、大道無門優也、舘野百代
本多麻紀、森山冬子、山本実幸、吉植荘一郎、吉見亮、渡辺敬彦
沢則行（操演）、桑原博之（操演）



SPAC×ケ・ブランリー美術館が織りなす、宮城聡の新たな祝祭音楽劇。

4000年の時を超え、英雄・ギルガメシュ王の友情と苦闘の冒険が静岡によみがえる！

フランス国立ケ・ブランリー美術館からの委嘱を受け、宮城聡が SPAC 俳優陣と取り組む新作は、古代メソポタミアの冒険物語『ギルガメシュ叙事詩』。粘土板にくさび形文字で刻まれた古代文明の象徴にして現存する世界最古の文学作品で、[ノアの方舟]の原型が見出されたことでも世界を驚嘆させた。そこには紀元前 2600 年頃に実在したとされるメソポタミア南部の都市国家、ウルクの王ギルガメシュを主人公に、大自然に暮らす親友エンキドゥとの出会いと別れ、自然破壊、そして永遠の生命を求める旅が描かれる。宮城はこれが「口承文芸」であった点を重視し、俳優によるコーラスと生演奏で、叙事詩本来の音楽性を立体的に立ち上げる。さらに今回、チェコを拠点に世界的に活躍する人形劇師・沢則行氏と初めてタッグを組み、舞台全面を覆いつくす巨大な操り人形「フンババ」（レバノン杉を守護する怪物）が空間をダイナミックに変化させ、大小様々な操り人形は太古の空想世界へと誘う。そこで語られるのは自然と人間との関係、そして人間の奢り。4000年の時を超え、現代の私たちに響く壮大な物語がここに始まる。

あらすじ

暴君として怖れられるウルクの王・ギルガメシュは、無二の親友・エンキドゥと出会い、民に愛される立派な王へと成長する。ある時、二人は都市の建設のためレバノン杉を求め、森へと向かう。巨大で恐ろしい森の番人・フンババが現れ、二人は力を合わせ打ち倒すが、エンキドゥはその罪により命を失ってしまう。ギルガメシュは悲しみから心を病み、死を恐れるようになり、そして永遠の命を求める旅に出るのであった—。

沢 則行 SAWA Noriyuki

北海道小樽市出身。1991年にフランス、1992年に文化庁在外研修派遣でチェコへ。以後、プラハを拠点に世界20ヶ国以上で公演、また、チェコ国立芸術アカデミー演劇・人形劇学部を始め、多くの教育現場で講座、ワークショップを行う。ヨーロッパ文化賞「フランツ・カフカ・メダル」授与、EU文化都市賞など、国際的受賞多数。日本国内では、NHK「みんなのうた」映像制作、「SWITCHインタビュー 達人達」出演、東京オリパラ大会の公式文化プログラム「東京2020NIPPON フェスティバル〜巨大人形プロジェクト『モッコ』」の人形デザイン設計および人形製作操演総指揮を担う。極小から巨大まで、あらゆる人形（＝フィギュア）を創造し操演するところから、フィギュアアートシアターの第一人者とされる。



沢則行による怪物「フンババ」のデザインスケッチ

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター 主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会

日本初演 演劇 <<<ソフィア

カリギュラ

16歳以上推奨

4月29日[金・祝] 14:00 開演、30日[土] 14:30 開演

会場：静岡芸術劇場

演出：ディアナ・ドブレヴァ 作：アルベール・カミュ

[全席指定] 上演時間：105分 ブルガリア語/日本語字幕

プレトークあり(各回開演25分前より) / 29日終演後アーティストトークあり

狂気の皇帝カリギュラを描いたカミュの傑作をたずさえ、
東西文化入り混じるブルガリアからイヴァン・ヴァゾフ国立劇場が初来日！

東ヨーロッパのバルカン半島東部に位置するブルガリア共和国はルーマニア、ギリシャやトルコなどと隣接し、古来、アジアとヨーロッパを結ぶ交通の要地であった。その首都ソフィアに1906年に建立され、「ブルガリア文学の祖」と目される詩人の名が付けられたイヴァン・ヴァゾフ国立劇場は、東西文化が融合しエキゾチックな情緒たどる街のシンボルとして威厳を放ち、幅広い演劇作品を上演している。このたび、満を持して初来日を果たすのは、同劇場に所属する劇団のレパートリー作品である、アルベール・カミュの傑作『カリギュラ』。ブルガリアを代表する演出家ディアナ・ドブレヴァが手がけ、孤独な皇帝カリギュラの「死」という絶対的不条理への葛藤を描いた、重厚で荘厳な舞台が静岡芸術劇場に登場する。

あらすじ 最愛の妹を失い、宮殿から姿を消したローマの皇帝カリギュラ。3日後に戻ってきたが、それまで非の打ちどころが無かった皇帝は豹変し、貴族平民かかわらず残虐非道のかぎりを尽くす。誰もが暴君と化した皇帝を恐れるなか、情婦セゾニアは愛するカリギュラの葛藤を受け入れようと寄り添い、忠臣エリコンは皇帝に従い続けるが、やがて貴族たちの怒りと恐怖はカリギュラ殺害へと向かう。カリギュラは自らの命の危険を知りながらも止まることなく、破滅の道へと進んでいく。

製作：ブルガリア イヴァン・ヴァゾフ国立劇場 後援：駐日ブルガリア共和国大使館



ディアナ・ドブレヴァ

ブルガリア・ソフィア出身。ブルガリア国立演劇映画芸術アカデミーにて演劇・映画のための演技と演劇演出の修士号を取得、仏・ソルボンヌ大学にて美術史を学ぶ。2006年に初演出となる『メディア』を上演し、演出家としてのキャリアをスタート。この作品で、ブルガリア国内の数々の賞を受賞したほか、仏・アヴィニョン演劇祭で批評家とプレスが選ぶ最優秀舞台作品に贈られるクー・ド・クール賞を受賞した。以降、国際的に演劇作品を発表し、ブルガリア国内外において数々の最優秀演出家賞を受賞している。17年よりイヴァン・ヴァゾフ国立劇場の主任演出家を務め、ブルガリアを代表する演出家の一人として活躍している。



日本初演 演劇 <<<ジュネーヴ/ルナン

私のコロンビーヌ

5月3日[火・祝]14:00 開演、4日[水・祝] 13:00 開演

会場：静岡芸術劇場

演出・舞台美術・衣裳・出演：オマール・ポラス

作：ファブリス・メルキオ

[全席指定] 上演時間：80分 フランス語上演/日本語字幕

プレトークあり(各回開演25分前より)

舞台の魔術師、オマール[Omar]による愛[amor]の賛歌！

ラテンのリズムに乗せ、波乱万丈の人生を切なくユーモラスに語り上げる。

1999年の『血の婚礼』以来、度々SPACに登場し、奇抜無類の舞台にファンも多い俳優・演出家のオマール・ポラスが、その半生を自ら演じ語る。コロンビアの貧しい農家に生まれたオマール少年は、本屋の片隅でニーチェを読み、店主が語る芸術の街パリに憧れを抱く。両親の反対を押し切って海を渡り、パリの地下鉄で無言の人形劇にいそしみ日銭を稼ぐ日々…。恋多きオマール！出会いの人オマール！演劇に導かれた人生、その視線は次第に川を遡るように過去へと向かう。体からにじみ出るラテンのリズムと逆境に屈しない明るさ、人生の機微を变幻自在に演じ分ける卓越した名人芸に、誰もが幸せのヒントをもらう。



© Ariane Catton Balabeau

■SPAC「ふじのくににせいかい演劇祭 2022」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

あらすじ

三々五々、観客が集まって来る劇場。この物語の主人公であるオマール・ポラスはそんな客に案内人のように話し掛けながら、その実、すでに物語の中心にいる。コロンビアの貧しい農家に生まれたオマール少年は、「ペンよりも鎌を持って」という父と、教育熱心な母に育てられる。どうにか学校を卒業したものの、何をすればよいのか分からない。誘われるまま入隊した軍も長続きしなかった。そんなある日、街の本屋で偶然手にしたニーチェの著作に深い感銘を受ける。本を買うお金もなく、本屋に通って読むうち店主に気に入られ、パリの文化サロンの話を聞き、憧れを抱くようになる。そして、自らの人生を大きく動かす決断をするのだった。

オマール・ポラス Omar PORRAS

1963年コロンビア生まれ。スイスを拠点に活動する演出家・俳優。南米各地でダンスや演劇を学んだ後、20歳で渡仏。地下鉄で人形劇を上演しながら生活費を稼ぎ、ルコック演劇学校とパリ第三大学演劇科に通う。90年スイス・ジュネーヴ郊外の廃屋をアトリエに改装し「テアトロ・マランドロ」を創立。バリ島、インド、日本をはじめとするアジア演劇の手法やイタリアのコメディ・デラルテなど多様な演技法を取り込み、独自の演劇スタイルを確立する。静岡での公演は99年シアター・オリンピックスでの『血の婚礼』以来、今回で12回目となる。SPACとの共同制作で『ドン・ファン』（2009年初演）、『ロミオとジュリエット』（12年初演）を演出し、SPAC俳優陣からの信頼も厚い。その他の代表作に『ユビュ王』、『貴婦人故郷に帰る』など。近年はオペラの演出も多く手がけている。07年コロンビア国家功労勲章を受章。14年スイス最高の演劇賞であるハンス・ラインハルト・リング賞を受賞。コロナ禍によるロックダウン中に書かれた、テアトロ・マランドロでの最新作『Carmen l'audition』は、21年夏に野外で上演され、今夏も巡回公演が予定されている。

製作：アム・ストラム・グラム劇場、TKMクレペール＝メロー劇場
後援：在日スイス大使館



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館

SPAC 作品 演劇 <<<静岡

ふたりの女 平成版 ふたりの面妖があなたに絡む

4月29日[金・祝]、30日[土]

各日 18:00 開演

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

演出：宮城聡 作：唐十郎

出演：SPAC/たきいみき、奥野晃士、春日井一平、木内琴子、
杉山賢、鈴木真理子、武石守正、永井健二、布施安寿香、
三島景太、若宮羊市



『ふたりの女』2019年 ©Y.Inokuma

[全席自由] 上演時間：100分 日本語上演/英語字幕 **プレトークあり(各回開演25分前より)**

宮城聡のアンガラ演劇へのオマージュが炸裂する、SPAC 野外劇のテッパン！！

1960年代以降、アンガラ演劇をリードしてきた劇作家・演出家の唐十郎。その戯曲には、猥雑さがない交ぜにした時代のエネルギーが凝縮され、詩的・音楽的なセリフ群は輝きを放ち続ける。『ふたりの女』は、『源氏物語』の光源氏と妻・葵上、生霊となった六条御息所の三角関係に、狂気と正気の境界を描くチェーホフの『六号室』を巧みに織り込んだ傑作。唐戯曲を敬愛してやまない宮城聡が、極小空間での伝説的初演を深くリスペクトしつつ、自身の演出術を縦横無尽に駆使し、これを日本平の森へと解き放つ！2009年の初演から13年。毎公演大入り満員のSPAC 野外劇、4度目の上演！！

あらすじ 伊豆の砂浜に立つとある病院。イケメン医師・光一は、六条という名の美人患者に声をかけられ、不意に彼女のアパートの鍵を受け取ってしまう。富士スピードウェイで妊娠中の妻・アオイとレース観戦をしていた光一、アオイが席を外した際に、退院した六条が現れる…。

唐十郎 KARA Juro

1940年東京生まれ。明治大学文学部演劇学科卒業。63年「劇団状況劇場」を旗揚げ。実験精神と独自性に富む街頭での野外劇を試みるなど、小劇場運動の先陣を切った。67年新宿花園神社に初めて紅 TENT を建て『腰巻お仙』を上演。以後 TENT 公演を中心に活動、海外公演も行う。70年『少女仮面』で岸田國士戯曲賞、82年『佐川君からの手紙』で芥川賞など受賞歴多数。88年「劇団唐組」を結成。劇団を率い、現在までほぼ年2回のペースで新作上演を続けている。また、ドラマ、CM 出演等、俳優としての活躍は演劇、映画にとどまらず、2021年には文化功労者として顕彰された。

日本初演 回遊型演劇 <<<ケープタウン・静岡

星座へ

5月6日[金]、7日[土]、8日[日]

各日 17:30 集合

日本平の森（集合場所：静岡芸術劇場）

コンセプト：ブレット・ベイリー / 日本版キュレーション：大岡淳

出演：[五十音順]

国広和毅、黒谷都、こぐれみわぞう、里見のぞみ、辻康介、
巻上公一、美加理、水沢なお、宮原由紀夫、山下残、渡辺玄英 他
※演出上の都合により、どのパフォーマーに巡り合うかは事前に知らされません。

[全席自由] 上演時間：約 220 分（異動含む・本編約 120 分）日本語上演（字幕なし）



『Constellations』南アフリカ共和国 2020 年初演

南アフリカの鬼才ブレット・ベイリーの最新作を日本版として上演！

悠久の森で、多彩なアーティストと交差する幻想体験。

少人数に分かれた観客は、夕刻の森に放たれる。迎えるのは、森に点在する灯を司る「ガーディアン」たち。彼らは唄い、舞い、そして語る。暗闇に瞬く明かりを囲み、それを新緑の木々と星々が囲む。世界的に高く評価される南アフリカ共和国の演出家・劇作家・インスタレーションアーティストのブレット・ベイリーが、コロナ渦の混乱の中で構想しケープタウンのワイン農園で初演された本作を、SPACとのコラボで日本初上演。演出家・劇作家の大岡淳（SPAC 文芸部）がキュレーションを担い、ダンサー、ミュージシャン、詩人など、多彩なジャンルのアーティストたちが日本平の森に集結、ライブパフォーマンスで私たちをもてなす。日常から離れて出会う、まだ見ぬ世界、無数の物語。その夜限りの宴は、星座のようにつながっていく。

ブレット・ベイリー 劇作家・演出家・デザイナー・インスタレーションアーティスト。1967年、南アフリカ共和国生まれ。ケープタウンを活動拠点とし、96年に「サード・ワールド・バンファイト」(Third World Bunfight)カンパニーを設立。革新的な演劇手法によって生み出される作品群は、現代のポストコロナリアル世界に疑問を呈するものとして高い評価と注目を浴びている。南アフリカのみならず、イギリス・スペインなど海外ツアーも広く行っており、国際演劇フェスティバルの審査員も数多く務めている。2013年『Exhibit B』に続き、21年には『SAMSON』がフランス・アヴィニョン演劇祭で上演された。14年にはUNESCO国際演劇協会のワールド・シアター・デイへ向けたメッセージを執筆。19年フランスの芸術文化勲章シュヴァリエを受章。同年、東京芸術祭ワールドコンペティション2019の審査員を務めた。

◎小学生以下の方はご遠慮ください。 ◎小雨決行。

◎集合場所から上演会場へはチャーターバスで移動いたします。必ず集合時間の17時30までにお越しください。集合時間に遅れますと観劇いただけませんので、ご了承ください。

◎参加者は出発前に小グループに分かれ、ガイドのもと、3つのパフォーマンススポットを巡ります。複数名でご予約の方は、演出上の都合により別々のグループに分かれてご参加いただけます。

◎各スポットでのパフォーマンス時間は約30分です。

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター 協力：サード・ワールド・バンファイト 後援：駐日南アフリカ共和国大使館

同時開催

ストリートシアターフェス

ストレンジシード静岡

静岡市「まちは劇場 ON STAGE SHIZUOKA」

5月3日[火・祝]、4日[水・祝]、5日[木・祝]

会場：駿府城公園内各所、静岡市役所・葵区役所、
静岡市民文化会館 野外ステージ など

料金：観覧無料 ※一部予約制の場合あり

演劇とダンスで、いつもの街が劇場に変わる

さまざまなパフォーマンスが街にあふれ、日常の風景が変化するー

誰も見たことのない静岡が現れる！

観て、感じて、参加して。

このGW、あなたは濃密な“ストリートシアター”を体験する。

日本では他に類を見ない、野外のパフォーミングアーツフェスを目撃せよ！



【出演予定アーティスト】*第一弾発表

少年王者館 / contact Gonzo / 範宙遊泳 / ままごとソロ・ワークス / 渡邊尚 /
壱劇屋×サファリ・P×SPAC ストレンジチーム / ホナガヨウコ / モモンガ・コンプレックス / sunday
コトリ会議 / 和太鼓+ダンスユニット<まだこばやし> / 齊藤コン /
山田裕幸×劇団渡辺 / 劇団かいぞく船 / 羊のクロニクルズ …and more!

フェスティバルディレクター：ウォーリー木下

主催：静岡市 共催：SPAC-静岡県舞台芸術センター

【詳細は公式サイト、公式 SNS で随時公開！】

strangeseed.info

[@strangeseed_sss](https://twitter.com/strangeseed_sss)

[@shizuoka.strangeseed](https://www.instagram.com/shizuoka.strangeseed)

そのほかの演劇祭関連企画

◎お茶摘み体験をしよう！ in 舞台芸術公園（野外劇場見学付き）

富士山をバックに、お茶摘み体験！ お茶どころ・静岡ならではの楽しみです。

★お茶摘みの合間に、野外劇場「有度」にて『ふたりの女』の舞台美術をご覧ください。

（所要時間およそ 30 分）

5月1日[日] 9:30~12:00 ※雨天中止

舞台芸術公園 稽古場棟「BOX シアター」前 集合

参加費：一般 700 円、高校生以下 500 円、未就学児無料 要予約



◎広場トーク in フェスティバル garden

駿府城公園の開放的な空気のもと、宮城聡とアーティスト・論客たちが自由に語り合うトークイベントです。

※登壇者・トークテーマは決定次第、特設サイトにて発表いたします。

5月5日[木・祝] 16:30~17:30 会場：フェスティバル garden 予約不要・無料



©Y.Inokuma

■SPAC「ふじのくににせかい演劇祭 2022」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園） / E-mail： uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

◎しりあがり寿 presents ずらナイト

静岡出身の漫画家・しりあがり寿と、パフォーミングアーツのジャンルを越境する
ゲストによるフェスティバル・ナイト。

5月3日[火・祝]、4日[水・祝]、5日[木・祝]

各日 18:00～21:00

会場：ARTIE（アルティエ）

予約不要・無料

主催：静岡市 共催：SPAC・静岡県舞台芸術センター 協賛：ARTIE アルティエ



©しりあがり寿

◎フェスティバル garden

地ビールや自家焙煎の珈琲などを取りそろえた演劇祭のコミュニティスペース。

5月3日[火・祝]、4日[水・祝]、5日[木・祝]

各日 11:00～18:00

会場：駿府城公園 東御門前広場 **入場無料**

プロデューサー：スノドカフェ代表 柚木康裕



チケット情報

SPAC の会会員先行予約開始 3月21日[月・祝] / 一般前売開始 3月27日[日]

一般	4,200 円
ペア割引	3,700 円 (2名様で1枚につき)
グループ割引	3,300 円 (3名様以上で1枚につき)
ゆうゆう割引	3,500 円 [満 60 歳以上の方] ※公演当日、年齢のわかる身分証をご提示ください。
学割	2,000 円 [大学生・専門学校生] 1,000 円 [高校生以下] ※公演当日、学生証をご提示ください。
障がい者割引	2,900 円 [障害者手帳をお持ちの方] ※付添の方 (1名様) は無料。

※各種割引を組み合わせでのご利用はできません。 ※割引をご利用の際は、必ずご予約時にお知らせください。

※障がい者割引、10名様以上でのご予約については、電話・窓口のみでのお取り扱いになります。

チケット購入方法

電話予約 SPAC チケットセンター TEL：054-202-3399 (受付時間 10:00～18:00・休業日 4/12[火]を除く)

ウェブ予約 [https:// festival-shizuoka.jp](https://festival-shizuoka.jp)

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター (受付時間 10:00～18:00・休業日 4/12[火]を除く)

※チケットのご予約受付は公演前日の 18 時までとなります。

当日券 残席がある場合のみ、開演 1 時間前より各公演会場の受付で販売します。

※当日券の有無は、公演当日にお電話もしくは Twitter (@_SPAC_) でお確かめください。

アクセス

ゴールデンウィークの日中は、渋滞や公共交通機関の混雑が予想されますので、時間に余裕をもってお越しください。

静岡芸術劇場（静岡市駿河区東静岡 2丁目 3-1）

JR「東静岡駅」南口から徒歩約 5 分。

電車 ◎最寄りの JR「東静岡駅」は、JR「静岡駅」より東海道本線（沼津・熱海方面、上り）で約 3 分。
※1 時間に 5～6 本、10～15 分間隔で運行しています。

◎静岡鉄道「長沼駅」から徒歩約 12 分。

自家用車 ◎JR「東静岡駅」南側のグランシップ一般駐車場をご利用ください。
※駐車料金は劇場内の精算機をご利用いただくと 1 時間 100 円になります。

舞台芸術公園（静岡市駿河区平沢 100-1）

バス 無料チャーターバスをご利用ください。

※舞台芸術公園バスロータリーから野外劇場「有度」へは徒歩 5～10 分です。

自家用車 ◎東名高速道路清水 I.C. から車で約 30 分、静岡 I.C. から約 30 分、日本平・久能山スマート I.C. から約 15 分。
静岡バイパス千代田上土 I.C. から約 25 分。

◎日本平動物園より日本平方面へ 1.8 キロ先、左手の舞台芸術公園内の駐車場をご利用ください。

お願い 舞台芸術公園内の駐車場は台数に限りがございます。自家用車でお越しのお客様は、
グランシップ一般駐車場等に駐車の上、無料チャーターバスのご利用をお願いいたします。

駿府城公園（静岡市葵区駿府城公園 1-1）

静岡市民文化会館（静岡市葵区駿府町 2-90）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 15 分。

◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約 12 分。

バス ◎しずてつジャストライン「市民文化会館入口」停留所下車、徒歩約 8 分。

※JR「静岡駅」北口 5 番または 6 番乗場から約 7 分（運賃 100 円、5～10 分間隔で運行しています）

自家用車 ◎「静岡市民文化会館前駐車場」（地下駐車場・有料）及び周辺駐車場をご利用ください。

静岡市役所・葵区役所（静岡市葵区追手町 5-1）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 10 分。 ◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約 5 分。

ARTIE（静岡市葵区七間町 4-3）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 10 分。

お問い合わせ

SPAC チケットセンター **054-202-3399** (10:00～18:00・休業日 4/12[火]を除く)

◆「ふじのくににせかい演劇祭 2022」の最新情報は・・・

プレスリリース、[演劇祭 2022 特設サイト](#)、[SPAC 公式サイト](#)にて、随時お知らせいたします。

演劇祭特設サイト <https://festival-shizuoka.jp>

SPAC 公式サイト <https://spac.or.jp>

[Twitter](#) @_SPAC_ / [Facebook](#) SPACshizuoka / [Instagram](#) spac_shizuoka / [YouTube](#)

#ふじのくににせかい演劇祭 #festivalshizuoka

SPAC - 静岡県舞台芸術センター 〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1

TEL : 054-203-5730 (静岡芸術劇場) / FAX : 054-203-5732 <https://spac.or.jp> E-mail : mail@spac.or.jp

広報のお問い合わせ : TEL : 054-208-4008 (舞台芸術公園)

内田稔子(uchida@spac.or.jp) 坂本彩子(sakamoto@spac.or.jp)

計見葵(keimi@spac.or.jp) 西村藍(nishimura@spac.or.jp) 戸塚美奈(totsuka@spac.or.jp)